

水環境国際活動賞（いであ活動賞） (JSWE-IDEA International Activity Award) 授賞に関して

本会では、水環境分野の国際交流・国際協力の促進を目的として、いであ株式会社からのご出捐により、水環境国際招聘賞と水環境国際活動賞を設けております。水環境国際活動賞は本会活動趣旨に沿った優秀な国際的な活動として選定したものを顕彰し、その一部または全部の助成を行う制度です。2019年度は東京大学 滝沢 智氏と東京大学 栗栖 太氏が受賞され、第53回年会にて表彰されました。

なお、次年度の水環境国際活動賞の募集案内は秋頃に本誌会告に掲載する予定です。

(水環境国際活動賞・招聘賞選考委員会)

水環境国際活動賞（いであ活動賞）を受賞して

第8回 IWA 微生物生態と水環境工学専門家会議 (MEWE2019)

東京大学大学院工学系研究科附属水環境制御研究センター
(微生物生態と水環境工学研究委員会委員長・IWA MEWE2019 実行委員会委員)

栗 栖 太

このたびは、栄誉ある水環境国際活動賞（いであ活動賞）を授賞いただき、(公社)日本水環境学会ならびに、いであ株式会社の関係各位に、本会議の実行委員会を代表いたしまして、心より御礼申し上げます。受賞対象となった「The 8th IWA Microbial Ecology and Water Engineering Specialist Conference (MEWE2019)」は2019年11月17日(日)～20日(水)にANAクラウンプラザホテル広島(広島県広島市)で開催される国際会議です。この国際会議は国際水協会(IWA)のMicrobial Ecology and Water Engineering (MEWE) Specialist Groupの会議となっております。本会議およびSpecialist Groupの前身はActivated Sludge Population Dynamics (ASPD)で、2013年に現名称となってから3年に一度に行われており次回で3回目、前身の会議から通算すると8回目の会議となります。

ASPD会議の時代には、その名称のとおり、活性汚泥法および栄養塩除去プロセスなどの活性汚泥法の変法を対象として、処理の鍵となる微生物の特定や処理メカニズムの解明などを中心に議論されてきました。MEWE会議となったからは、アナモックス処理や嫌気性廃水処理、さらには浄水処理など、生物学的水処理全般に対象が広がりました。会議では、処理プロセスにおける微生物生態学にとどまることなく、微生物生態の理解をどのように処理の向上や新しいプロセスの開発に結び付けていくかも、常に話題に上っています。さらに最近の会議においては、水道水中の微生物再増殖や水環境中の抗生物質

耐性微生物など、広く水環境分野にかかわる微生物生態についても活発に発表が行われる場となってきました。また、これらの研究を行うための研究手法として、分子生物学的解析手法をはじめとする手法についても最新の情報が提供されてきました。

本会議は、大橋晶良広島大学教授を実行委員長とし、本会の微生物生態と水環境工学研究委員会の幹事一同で準備にあたっております。これまで過去7回すべて欧米やオーストラリアで開催されてきておりますが、今回のアジアでの初開催を日本で行うことにより、日本国内における優れた研究成果を発信し研究ネットワークを広げる絶好の機会と考えております。また、新規生物処理技術の開発などに関係してきた著名な研究者も多く参加することが期待されることから、海外の研究者との技術開発面での協力関係を構築するうえでも貴重な機会となるはずで、ぜひ多くの会員の皆様のご参加を賜りますよう、お願い申し上げます。本年7月15日まで、早期参加登録も受け付けております。会議の詳細はMEWE2019のホームページ(<http://mewe2019.org>)に掲載されており、順次情報を更新してまいります。学会誌会告、ホームページ、メールマガジンでもご案内いたしますので、ぜひご覧ください。今後も水環境国際活動賞の受賞に恥じることがないように、11月の開催に向けて実行委員一同張り切って準備を行ってまいります。このたびは誠にありがとうございました。

水環境国際活動賞（いであ活動賞）を受賞して

第7回 IWA 水中の天然有機物に関する専門家会議（NOM7）

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻
（将来の水環境変化に対応した水供給システム研究委員会委員長・
IWA NOM7 実行委員会委員長）

滝 沢 智

このたびは、栄誉ある水環境国際活動賞（いであ活動賞）を授賞いただき、（公社）日本水環境学会ならびに、いであ株式会社の関係各位に心より御礼申し上げます。

受賞対象となった「The 7th IWA Specialist Conference on Natural Organic Matter in Water 2019 (IWA NOM7)」は、2019年10月7日（月）～9日（水）に一橋講堂（東京）で開催される国際水協会（International Water Association）の会議です。この国際会議は、水中の天然有機物（NOM）分析技術、水環境中でのNOMの動態、NOMに起因する水道水質への影響、NOM除去技術など、水中のNOMに関する最新の研究や現場からの知見を共有することで、NOMに関する理解を深め、またNOMに起因する水環境や水処理における課題を解決することを目的としており、これまでにフランス、アメリカ、オーストラリア、スウェーデンなどで6回の会議が開催されてきました。第7回となる本会議では、気候変動による水中のNOMへの影響、NOMの革新的な分析・測定技術、水道・下水道・水の再利用や海水淡水化におけるNOMの挙動と影響、消毒副生物の前駆物質としてのNOM、浄水処理における革新的なNOM除去技術、水道原水中のNOM低減のための土地利用や水源管理、NOMの量的および質的特徴の変化とそのモデル化、人工的な汚染物質の挙動に対するNOMの影響、などの幅広いテ

ーマに関して、研究者だけでなく、水環境の保全や水道などの実務に携わるあらゆる専門家による活発な議論がなされるものと期待しております。

本会議は（公社）日本水環境学会に後援いただいております。現在、（公社）日本水環境学会「将来の水環境変化に対応した水供給システム研究委員会」の委員を中心とした実行委員会により準備を進めております。ぜひとも多くの会員の皆様にご参加をいただき、日本の研究や技術の成果を世界に発信するとともに、海外からの招待講演者や発表者の最新の研究成果を学ぶ場としていただきたいと存じます。本会議が、日本の技術者や研究者と、海外からの参加者との国際的なネットワークの構築に貢献し、また将来の日本および世界における水環境や水供給システムの発展に繋がる機会となるよう、会議の企画、運営に努力してまいります。本会議の詳細はIWA NOM7の公式ホームページ（<http://iwa-nom7.org>）に掲載されており、順次情報を更新いたします。また、学会誌会告、ホームページ、メールマガジンでもご案内いたしますので、ぜひご覧ください。

今後は、水環境国際活動賞の受賞に相応しい国際会議となるよう、10月の開催に向けて最善の準備を行ってまいります。

このたびは、誠にありがとうございました。